

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	縄文祭りと縄文の地域づくり
事業主体	八ヶ岳jomon楽会
(連絡先)	〒391-0100 諏訪郡原村17217-3470四季の森J-6
事業8区分	(8) 地域の元気を生み出す地域づくりに視する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	¥1,468,551円(うち支援金796,000円)

事業内容

原村地域は移住者、観光客も多いが地域との交流の場は少ない。地域の文化的財産である縄文文化を活用し、課題を解決するため参加型の「縄文まつり」「諏訪地域学講座」を下記の通り実施した。

- 「縄文まつり」は、土器作り、弓矢体験 火起こし体験、木のフィギュア作り、縄文アクセサリ作り体験を観光客の多い7月8月で7日間開催した。
- 地域の歴史文化を浸透するため「諏訪学講座」を6日間9講座を実施した。
- 会場は観光客も多い「原村自然文化園」で7月から11月にかけて実施した。



【目標・ねらい】

- ①「縄文まつり」で様々な体験等を通し、移住者 観光客・地域住民との交流を図る。 また、縄文文化の素晴らしさを伝える。
- ②諏訪地域の文化・歴史を共有することで郷土に誇りを持ち地域連帯感を深める。

事業効果

- ①チラシに支援金での行事であることや広報「原」を通してチラシを全戸配布・公共施設・観光施設等への配布。学校PTA 掲示板での呼びかけ。電話の問い合わせ やメールでの申込もあった。 結果、新聞社やケーブルテレビの取材もあり、参加者、見学者を含め延べ750人が会場を訪れ、次年度開催を望む声もきかれた。
- ②講演会では、講師への質問も多く関心の高さがうかがえた。「諏訪学講座」の定期的開催を望む声もきかれた。

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・「縄文まつり」地域ボランティア延べ約25名参加。見学者も含め延べ約750名が集った。
- ・「諏訪学講座」コロナ感染拡大の影響で予定よりやや少ない参加であったが、「諏訪学」のタイトルで幅広い(地域・年齢層)の参加者・質疑等で参加者と講師との交流もできた。
- ・新聞やTVの取材も有り趣旨を周知できた。

9人の講師の先生も、縄文文化の中心であった八ヶ岳西麓での講演に熱が入ったとのこと。参加者は、コロナの感染拡大、酷暑等の影響で予想より若干少ない延べ約200人であった

今後の取り組み

八ヶ岳jomon楽会の定例会(読書会・縄文織り教室)への参加を移住者や地域の方に促していく。また、定例会では縄文に限定せず諏訪全体の歴史・文化にも触れていきたい。縄文土器作りなど 体験的な活動を開催し、小・中学生や観光客、移住者にも更に縄文文化や地域の文化・歴史に興味・関心を持ってもらう事で地域に誇りをもたせられるようにしたい。 長野県の元気づくり支援金事業で得た経験から「縄文まつり」「諏訪学講座」を地域の夏の

定例行事として定着させる取り組みを八ヶ岳jomon楽会の活動としてに位置づけていく。